

目次

序章	
1. はじめに	p. 1
2. 各章の内容と先行研究	p. 1
第1章 18世紀後半のロシアの «публика (公衆)»	p. 8
1.1. 国民の階層構成から見る貴族	p. 9
1.2. 書籍文化の発展、識字率と読者層	p. 11
1.3. 貴族文化人	p. 20
1.3.1. 定義	p. 20
1.3.2. 特徴	p. 23
1.3.3. 知的活動の形態	p. 24
1.4. エカテリーナⅡ世（在位 1762-96）と貴族文化人の啓蒙活動の目標	p. 26
第2章 出版統制法令の特徴による時代区分、及びエカテリーナⅡ世と 貴族文化人の関係	p. 32
2.1. エカテリーナⅡ世即位以前の出版統制関連法令（1720年～1761年）	p. 35
2.2. 第Ⅰ期（1762年～1782年）エカテリーナⅡ世による出版業の保護と育成	p. 37
2.2.1. 出版統制関連法令（1762年～1782年）	p. 37
2.2.2. エカテリーナⅡ世による出版・文芸活動庇護	p. 45
2.2.3. ノヴィコフの出版活動	p. 48
2.2.4. 審査基本方針の確立	p. 52
第3章 第Ⅱ期（1783年～1789年）国家による民間人の出版活動に対する監視	p. 56
3.1. 出版統制関連法令（1783年～1789年）	p. 56
3.2. 制限つき出版の自由とポリスの整備	p. 61
3.3. 内容規制（検閲）法令とノヴィコフを対象にした法令	p. 64
3.4. 出版統制政策の政治的利用 エカテリーナⅡ世とフォンヴィージン	p. 68
3.4.1. フォンヴィージン	p. 68
3.4.2. 戯曲の審査（演劇検閲）	p. 70
3.4.3. フォンヴィージンと雑誌『ロシア語愛好者の友』	p. 72
第4章 第Ⅲ期（1790年～1800年）貴族文化人の出版活動に対する監視強化	p. 88
4.1. 出版統制関連法令（1790年～1793年）	p. 88
4.2. ラジーシチェフとノヴィコフに対する弾圧	p. 94
4.2.1. ラジーシチェフ	p. 94
4.2.2. ノヴィコフ	p. 98
第5章 第Ⅲ期（1790年～1800年）外国の影響力阻止を目的とした 検閲機関の整備と強化	p. 104

5.1. 出版統制関連法令（1793年～1800年）	p. 104
5.2. 外国の影響力阻止	p. 114
5.2.1. 新聞・雑誌に対する監督強化、私信開封	p. 114
5.2.2. 検閲機関としてのポリスの能力不足	p. 116
5.2.3. エカテリーナⅡ世に見られるロシア社会に対する外国の影響力への恐れ	p. 117
5.2.4. エカテリーナⅡ世による印刷認可への直接関与 （クニャジニンの作品『ノヴゴロドのヴァジム』をめぐって）	p. 117
5.3. 公式の検閲機関の整備	p. 121
5.3.1. 外国書籍の流入	p. 123
5.3.2. 公式の検閲機関設立案の作成、元老院の取り組み	p. 126
5.3.3. 検閲機関整備に関する匿名の提案書 「検閲について(Нечто о цензуре)」	p. 127
5.4. 公式の検閲機関の具体的活動	p. 132
5.4.1. パーヴェルⅠ世（在位 1796-1801）の出版統制関連政策	p. 132
5.4.2. アレクサンドルⅠ世（在位 1801-25）と検閲規約	p. 137
終章	p. 142
年表	p. 145
付属資料 1 雑誌『ロシア語愛好者の友』の詳細情報	p. 149
付属資料 2 雑誌『ロシア語愛好者の友』の作家の経歴	p. 152
付属資料 3 ロシア・アカデミー会員リスト	p. 158
参考文献	p. 160